OPEN CAMPUS 2014

今年も学部説明、キャンパスツアー、IT放送スタジオ体験、保護者説明、個別相談など、
盛りだくさんなオープンキャンパスを開催します。大学生活や、とっても気になる入試の話まで
先生や先輩の話が聞けて相談もOKです。今年は入試制度が大きく変わります。
しっかり情報収集するためにも、お友達や保護者の方とお気軽にどうぞ！

予約不要

各日10:00〜15:00（9:30受付開始）

日程	学部	タイトル
6月22日(日)	サービス創造学部	「うまい棒（10円！）」は"ブランド"か。 〜「うまい棒」の価値をマーケティングから学ぼう！〜
	人間社会学部	『るるぶ 千葉商科大学 人間社会学部』 〜観光と行政で街を元気にする〜
	政策情報学部	決算カードを使って市町村の財政状況を分析してみよう！
	商経学部	一杯のコーヒーからグローバル化を考える
	国際教養学部	世界から見た日本人
7月13日(日) ゼミ体験開催	サービス創造学部	アニメやマンガが広告に!?　〜広がる広告の世界〜
	人間社会学部	社会貢献とマーケティング
	政策情報学部	政策情報学が読み解くメディア 〜人々はなぜ「バルス」とつぶやいたのか?〜
	商経学部	働きすぎると損をするってホント!? 〜アルバイトと税金についてもっと知ろう！〜
	国際教養学部	眠った英語を呼び覚まそう
7月27日(日) ゼミ体験開催	サービス創造学部	私たちを取り巻くサービス社会。 一体、「サービス」って何だろう。
	人間社会学部	「ソーシャルビジネスとソーシャルファイナンス」 〜社会に貢献するビジネスと金融〜
	政策情報学部	アニメ・ゲームやミニコミ誌で街を救う 〜『中山参道どっと混む』〜
	商経学部	消費を通じて社会貢献をする
	国際教養学部	ITで国境を軽く超える 〜Google, Facebook, Twitter, LINE〜
8月3日(日) ゼミ体験開催	サービス創造学部	キャンパスライフに刺激を与える学食のサービスを創造しよう
	人間社会学部	学生が街を元気にする 〜『るるぶ』を作った人間社会学部１期生〜
	政策情報学部	現代音楽のコンサートを企画制作する 〜政策情報学部のクリエイティビティ〜
	商経学部	おカネにまつわる不思議な話
	国際教養学部	FIFAワールドカップの経済学
8月23日(土) ゼミ体験開催	サービス創造学部	人はどのように"買う""買わない"を決めているのか?
	人間社会学部	住みやすいまちづくり 〜赤ちゃんからお年寄りまでみんなが住みやすい街って?〜
	政策情報学部	ビットコイン：情報技術がつくる未来の「お金」
	商経学部	ユニクロとルイヴィトン、価値が高そうなのは・・・? 〜マーケティングを知り、買い物の不思議を考えよう〜
	国際教養学部	「てつのつるぎ」から始める世界の資源の歴史
9月7日(日)	サービス創造学部	インターンシップに行ってきました 〜学生のリアル体験報告〜
	人間社会学部	良好な人間関係の作り方 〜心理学とキャリア形成から考える〜
	政策情報学部	作ろう！NPO 身近な問題解決のために
	商経学部	身近なところから会計の世界を知ろう
	国際教養学部	ローマ法が作った世界のルール
10月5日(日)	サービス創造学部	コカ・コーラは本当においしいのか? 〜マーケティングから考えるおいしさの秘密〜
	人間社会学部	東北の復興について　〜安全・安心・元気な街を作り出す〜
	政策情報学部	失敗に学ぶ　〜なぜリスクマネジメントが必要か〜
	商経学部	大学で学ぶことによる利得 〜教育年数と所得そして健康の関係〜
	国際教養学部	国際規格と標準化が世界をつなぐ

※内容は変更になる可能性もあります。

Cover Girl

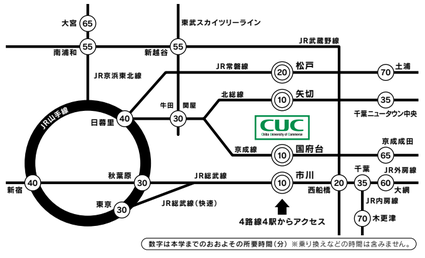
山崎 花菜　サービス創造学部　1年
東京都立本所高校出身

高校時代にダンス部だった山崎さん、今号で特集されているグリッターズと千葉ジェッツ・プロジェクトの両方に参加しています。「千葉ジェッツの試合ではグリッターズとしてパフォーマンスし、お客さまの笑顔を見られたことがうれしかったですね。プロジェクトも企業の方と関わるなど、この学部でしかできない経験を楽しんでいます！」

入学センターから

CUCのキャンパスでは、本館前の河津桜を皮切りに、染井吉野、八重桜、御衣黄と桜の季節がやってきます。卒業式に満開になったり、入学式を盛り上げてくれたり、いっしょに写真を撮ったり、多くの歌にも登場します。卒業と入学が春に重なる日本だからこそ、桜はいろいろと思い入れの大きな花木のような気がします。今年も桜の季節になりました。大学の新しい1年がはじまります。

ACCESS



CUC Chiba University of Commerce 千葉商科大学

2015年4月国際教養学部（仮称）設置予定（構想中）

●サービス創造学部　●人間社会学部（2014年4月開設）
●政策情報学部　●商経学部／商学科・経済学科・経営学科

お問い合わせ：入学センター
info@cuc.ac.jp　047-373-9701
〒272-8512 千葉県市川市国府台1-3-1

Webサイト www.cuc.ac.jp
CUC 検索

＊掲載の学年は2014年3月時点のものです。

Inside 2014 April vol.1 年4回発行予定　編集・発行／千葉商科大学入学センター

CUC アクティブラーニング宣言

Inside

自分らしく輝く学生の姿から、CUCの「今」が見えてくる。
千葉商科大学広報誌［インサイド］創刊号

2014 APRIL

Special Story

CUC初のチアダンスサークルを
ゼロから立ち上げた女子学生にクローズアップ！

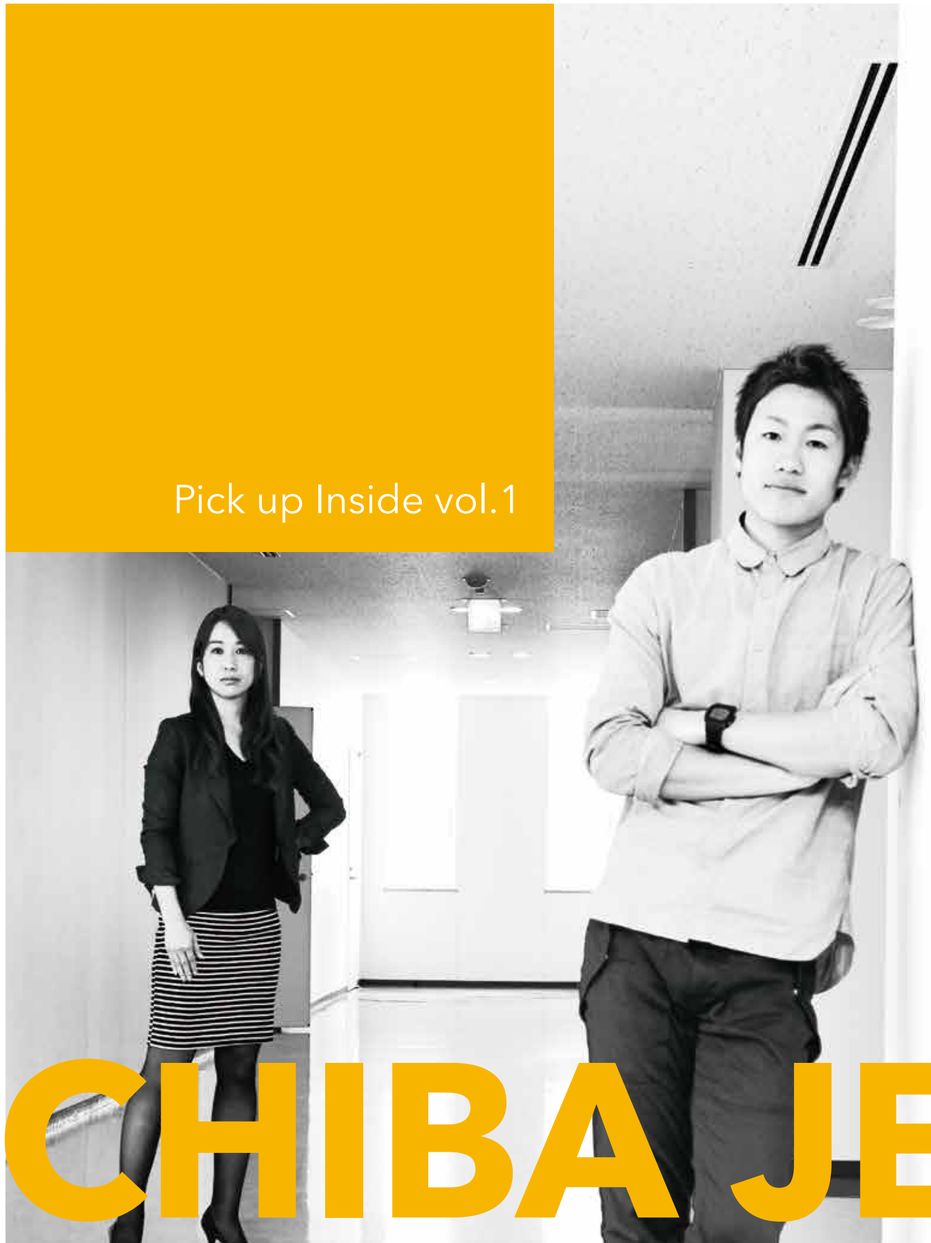
Love for the glitter's!

[Pick up Inside]

学生自身が、新しいサービスのアイデアを考え、企画し実行する。
サービス創造学部「学生プロジェクト」のリアル！

CHIBA JETS PROJECT

Pick up Inside vol.1



プロジェクトリーダー
若松 大幹
サービス創造学部　3年
埼玉県立志木高校出身

高校時代からスポーツビジネスに興味を持ち、CUCへの入学も学生プロジェクトの一つである「千葉ロッテ・プロジェクト」の存在がきっかけ。2013年は、千葉ロッテと千葉ジェッツ両プロジェクトのプロジェクトリーダーとして活躍した。

サービス創造学部特命講師
株式会社ASPE（千葉ジェッツ）／
サービス創造学部公式サポーター企業
蒔平 ゆき

千葉ジェッツ創設メンバーとして球団のセールス・プロモーションを手がけている。「プロジェクトメンバーは『球団職員』だと思っています（笑）。ジェッツが抱える問題・新たな挑戦をみんなでシェアし、考案した施策をジェッツの活動へと反映しています。歴史の浅い球団なので、取り組むテーマも多種多様です。仲間との関係性や、ビジネスの難しさ、スポーツの面白さなど、このプロジェクトを通じてさまざまな気づきを提供できたらと思っています。みなさんの内側にある“何かが目覚める場”になったら嬉しいです」

CHIBA JETS PROJECT

プロバスケットボールチーム「千葉ジェッツ」の

公式戦をプロデュースせよ―。

集まった19人のメンバーは、そのミッションを果たすために、

3ヶ月という限られた期間を全力で駆け抜けた。

CUCサービス創造学部の「千葉ジェッツ・プロジェクト」。

そこにはリアルなビジネスの現場だからこそ経験できる

「迷い」や「悩み」、それに「感動」がギュッとつまっていた。

単位なし、時間なし、水曜一限…。それでもアツいメンバーが集まった。

「千葉ジェッツ・プロジェクトの面白いところは『発展途上なところ』ですね」

2013年10月から3ヶ月にわたって取り組んだプロジェクトを若松君は笑顔で振り返る。

「千葉ジェッツは2010年に誕生したばかりで歴史が浅く、組織の規模も大きくない、成長途中の球団です。それだけに僕たち学生にもできることが多いんですよ」

2011年以来、通年授業として展開してきた同プロジェクトは、3年目に期間限定の特別プロジェクトになった。

「だから、単位はなし。しかも、授業は水曜一限。本番までの時間もない。なかなか厳しい条件がそろってましたよね。でも、面白そうな予感がしたので『やらないで後悔するより、やって後悔しよう』と決意しました」

若松君同様、「やりたい！」とモチベーションの高いメンバー19人が集まった。彼らへのミッションは『12月開催の公式戦プロデュース』だった。

「会場内でのイベントやファンサービスの企画演出などすべてを担当するんです。正直、大変でしたね（笑）」

経験不足は、楽しむことで乗り越えた！？

まずはメンバーを3チームに分けた。演出を企画する「イベントチーム」、会場デザイン担当の「装飾チーム」、告知戦略と実施を担う「広報チーム」。

「僕はチームの運営には口を出しませんでした。各リーダーのもと、みんなが自分から動くようにしたかったんです」

メンバーは19人中14人が1年生。“経験不足”が課題だった。

「プロジェクトリーダーの僕の役目は、一人ひとりが楽しみながら主体的に活動し、力を出し切れる状況を作ること。そうすれば経験不足なんて乗り越えられるって思っていました」

そのため、メンバーと1対1でコミュニケーションをとり、時に誰かをいじったり、自身がいじられ役に回ったり。共に話し、笑うことで、学年を越えて関係を築いていった。

「メンバーの間に良い空気が生まれると、アイデアが次々と飛び出すようになるんです。最初は緊張していた1年生も、嘘みたいに活発に発言するようになりました」

旅行が当たる抽選会をすれば盛り上がるんじゃないか、コートの間近にVIP席を設けてはどうだろう、ライトを配って赤い光で会場を染めたら…。みんなが知恵を振りしぼった。

「僕たちの提案を、蒔平さんはしっかりと受け止めてくれました。『これはできない』と頭ごなしに否定するのではなく、実現に導いてくれるんです。たとえば『他の企業が協力してくれたら面白いことができるんじゃないか』といった風に」

地元の企業や飲食店へ働きかけた結果、公式サポーター企業のJALをはじめ多くの協力を取りつけることができた。

集客も大事な仕事だ。大学構内に告知ポスターを貼り、SNSで情報を積極的に発信。近隣の高校へも足を運びPRした。最初は苦戦したチケット販売も、宣伝に工夫を凝らすうちに200枚近くを売り上げた。40席のVIP席には100名もの応募があった。毎日、手応えが大きくなっていく。そんな日々が、メンバーのプロジェクトへの想いを加速させた。気がつくと、プロジェクトは軌道に乗っていた。

みんながひとつになれた最高の2日間。

そして、いよいよ試合当日を迎えた。

「やっぱり緊張しましたね。僕を含めてみんな表情と動きがぎこちなかったと思います（笑）」

だから1日目、若松君は会場を走り回って仕事ぶりを確認しながら一人ひとりを勇気づけていった。メンバーは少しずつ緊張がとけていき、笑顔と積極性を取り戻してスムーズに動けるようになっていった。初日は無事に終了。しかし反省会で「応援の仕方を変えたら、もっと盛り上がるんじゃないか」と意見が出た。

「とはいえ、さすがに演出を変えるのは無理かなと思いました。でも、ダメでもともと。2日目の朝に蒔平さんに提案したら『いいね！』と一緒に演出担当の元へ行って、演出を変えてくれたんです！あのスピードには、感動しましたね」

2日間で3,000名を超える観客がかけつけた。イメージ通りに装飾された会場、サンタのコスチュームで応援するCUCチアダンスサークル「グリッターズ」、みんなで考え抜いた応援方法で一体となる観客席…。自分たちの3ヶ月が形になった会場で、全員が各々の役目を全力で果たした。

「試合後には、涙を流しているメンバーもいましたよ。『来年もやりたいです』と熱く訴える1年生もいました。仲間、企業と一緒になって大きな挑戦ができた最高の体験、最高の3ヶ月でした。プロジェクトに参加して、サービス創造学部に入って良かった。あらためてそう思いました」

2014年は、仲間と一緒にもっと大きなワクワクを！

大きな感動と達成感とともにプロジェクトは終了した。しかし、そこは新たな出発点だった。

「『あぁすればよかった、こうすればよかった』という思いがどんどんあふれてきたんです。だから、来年もやることにしました。もっともっといいプロジェクトにする自信があります。一人ではムリだけど、仲間がいればきっと大丈夫」

仲間と一緒にもがきながら一つのことに取り組む。この経験は社会に出てからもきっと役に立つと若松君は確信している。

＊

千葉ジェッツ・プロジェクトは2013年度の活動が認められ、2014年度は通年プログラムとして復活することになった。

「今回の反省点や悔しさを2014年のバネにしたいですね。新入生や新メンバーも入ってくるし、今年以上のワクワクを起こそうと色々と考えています」

さらに大きな進化を予感させる千葉ジェッツ・プロジェクト。今年も目が離せなくなりそうだ。

サービス創造学部 千葉ジェッツ・プロジェクト

千葉県初のプロバスケットボール球団「千葉ジェッツ」の運営会社 株式会社ASPEの蒔平ゆき氏を特命講師に迎えて2011年にスタートしたプロジェクト。チームが抱えるリアルな課題をテーマに、学生の自由な発想でチーム活動の活性化に取り組んでいる。

Love for the glitter's!

「キラキラした笑顔で踊って、CUCや地域の輝く存在になりたい！」
そんな想いとともに誕生したCUC初のチアダンスサークル「グリッターズ」。
サークルをゼロから立ち上げた時、どんな壁にぶつかり、どうやって乗り越えたのか？
そしてその後、どんな苦労や喜びがあったのか？大学生活のほとんどの時間を
グリッターズに捧げた代表・安村美咲さんのスペシャルストーリー。

Special Story

どんな壁にぶつかっても、
いつも「なんとかなる!」って思ってました。

Close-up People

glitter's代表
安村 美咲
サービス創造学部　4年
千葉県私立柏日体高校出身

すべては「自分で作っちゃいなよ！」から始まった。

グリッターズ立ち上げのきっかけは、実はCUCの入学審査までさかのぼります。面接で高校時代に取り組んでいたチアダンス部のことを熱く語ったところ、面接官だったサービス創造学部の吉田学部長に「うちにはチアないけどいいの？」って聞かれたんです。その瞬間は、まあ仕方ないかと思いながら「…はい」と返事をしたんですが、すぐに「自分で作っちゃいなよ！」って言葉が飛んできて。勢いに乗せられて「あっ、はい！」って（笑）。でも入学後、1年生の時は特に動きはありませんでした。授業に出て、アルバイトして、友だちと遊んで、高校のOGチームに所属してチアダンスの練習…。それはそれで楽しかったんですが、いつからか物足りなさを感じるようになっていったんです。そして大学2年の春、プロバスケットボールチーム「千葉ジェッツ」のチアリーダーズ「STAR JETS」のオーディションがあることを知り、ダメもとで受けてみたんです。そうしたら、なんと合格！千葉ジェッツを運営する株式会社ASPEは、サービス創造学部の公式サポーター企業ということもあり、吉田学部長から改めて「CUCでもチアを作って、STAR JETSと一緒に練習したら？」と言われ、大学からも正式に「サポートするのでやってみませんか？」って声がかかって。一緒にオーディションに合格した髙橋真実子さん（当時サービス創造学部2年）と話し合って決断しました。「大学4年間がこのまま終わっちゃうのはもったいない。せっかくチャンスをもらったんだから、やってみよう」って。

メンバー集めより先に、デビューの日を決めた！？

実際に動いてみると、ゼロからサークルを立ち上げるのは、本当に大変でした。最初は、全然メンバーが集まらなかったんです。「やってみたい」と思っている人はチラホラいたんですが、「やる！」という一歩を踏み出せる人がいなくて…。それでSTAR JETSとの練習体験会を開催したり、あの手この手を試したんですが、次に続かなくて…。落ち込みはしませんでしたが、困りましたね。でも根がポジティブなので、ダメなら次！次！と新しい手を打つんです。私、この時は「何か目標を作らないとね」という話になって。「じゃあ、まずはデビューの日を決めちゃおうか！」と。それで「2012年3月、千葉ジェッツの試合でデビューする」ということを決めました。メンバー集まってないのに、ですよ（笑）。そこからまた、いろいろな人に声をかけて巻き込んでいって、デビューの時は最終的に7人になりました。デビュー当日は、多くのお客さんの前で踊るということで、もちろん緊張しましたし、ようやくここまでたどり着いたという達成感もありました。でも私の中では「これからがスタートだ！」という気持ちが強かったですね。

メンバーの心がひとつになると、踊りもひとつになる。

そして次の大きな舞台が4ヶ月後、今度はプロ野球「千葉ロッテマリーンズ」の公式戦でした。デビュー後は、入学式をはじめ、地元の夏祭や市民祭など、たくさんのイベントで踊ったりして、徐々に皆さんに知られていき、メンバーも15人まで増えました。でもそのほとんどが初心者で、踊りの技術にも、モチベーションにも違いがあり、チームとしてまとめていくのは大変でしたね。「踊りを自分のものにしようと最後まで努力する人」と「なんとなく踊ればいいやと思っている人」がいて、その意識の差を埋めるために、練習を中断して、全体ミーティングをしたり…。チアはメンタルが超重要なんです。メンバーの心がバラバラだと、踊りもバラバラになってしまいますからね。だから先輩も後輩も関係なく、言いたいことを言い合える場を設けました。そうしてみんなの心と踊りをひとつにしていったんです。

大勢のお客さんの前で踊るのって、本当に気持ちいいんです。千葉ロッテの本番の時も最高の瞬間がいくつもありました。ポンポンの音が完全にそろったり、ラインダンスでみんなの足の振りがそろったり…。そんな時に実感するんです。「ああ、今、ひとつになってるなぁ」って。みんなで一緒になって作り上げてきたものを、たくさんのお客さんが喜んで見てくれるんです。だからどんなに練習が辛くても、本番が終わったら達成感で忘れちゃうんですよね。それに、私たちが大切にしているのが、支えてくれている人たちへの感謝の気持ち。親や先生や友だちがサポートしてくれるから、私たちは踊れている。だから、最高のパフォーマンスをすることで恩返しをしよう、と。絶対にその気持ちは忘れないようにしています。

glitter'sのおかげで、幸せな大学生活でした。

CUCでの4年間は、特にグリッターズ立ち上げからの時間は、本当に濃密でした。授業中も、踊りのフォーメーションのことを考えてしまっていたり…、ダメですよね（笑）。でも、それくらい頭の中ほとんどがグリッターズ状態でした。グリッターズを作ってなかったら、一体どんな大学生活を送っていたんだろう？って思います。もちろん、やりきった感はありますけど、まだまだグリッターズをやっていたい。まだ離れたくない、というのがホンネです。グリッターズには、10年、20年続くチームになってほしいと心から思います。就職も無事決まって、社会人としてこれから忙しくなると思いますが、私としては、これからもOGとして指導サポート等の立場で支えていけたらと思っています。

グリッターズの立ち上げは、本当にいい経験でした。いろんなことにチャレンジすることがクセになった気がしますね。自分とちゃんと向き合って、やりたいことにのめり込んで、充実した日々を過ごせた私は、とっても幸せでした。大学生活、4年間じゃ足りないですよ（笑）。「学生がチャレンジする気持ちを大切にしてくれて、それを全力でサポートしてくれる」。そんなCUCに入ってよかったって、今、心から思いますよ。

From Members

ともにglitter'sを支えてきたメンバーから。

髙橋 真実子　サービス創造学部　4年
千葉県私立千葉商科大学付属高校出身

ずっと一緒にやってきた安村さんは「何かあったら美咲に！」という頼れる存在でした。誰よりも周りを見ていて、元気がない子がいれば声をかけたり、ダンスの振り付けもイメージを伝えるだけで形にしてくれたり。本当に感謝しています。これから社会人になって別々の環境になるけれど、グリッターズのOGチームを作ろうと話をしています。卒業後もいっぱい集まろうね！

久永 隆仁　サービス創造学部　4年
千葉県立九十九里高校出身

安村さんはしっかりしているけれど、ときどき天然ボケが炸裂するかわいい人です（笑）。でも活動に関してはとても意識が高くて、あるイベントでは1人で何人もの企業の方と連絡を取り合ったりして、サークルのレベルをはるかに超えた仕事ぶりでした。男性部員としては、引き継いでくれる後輩男子がほしいかな。立ち上げからずっと続けてきたことは、僕の自慢でもあります。

CUC Active Learning NEWS

沖縄リゾートウエディング・プロジェクト

ウエディングの新しいビジネスモデルを考えるため、沖縄でフィールドワーク！

サービス創造学部では、新しいウエディングサービスの創造を模索するプロジェクトがスタート。その一環として沖縄でフィールドワークを実施しました。現地で模擬挙式を行い、沖縄リゾートウエディングの魅力を体感。今後はその魅力を広く伝え、新しいビジネスを創りだしていくため、女子大生をターゲットとして「沖縄リゾートウエディングの魅力を伝える旅行プラン」の制作を計画しています！（サービス創造学部）

まちおこしプロジェクト in 弘前

学生ならではの発想で新しい観光プランを考え、まちおこしに挑戦！

地域活性化を学ぶ人間社会学部では、株式会社JTBコーポレートセールスとタッグを組み、青森県弘前市のまちおこしに挑戦！学部開設を前に、既存学部の学生が試験的に弘前を訪れました。初日に弘前市の観光政策を学び、翌日は実際に観光地をフィールドワーク。最終日に自分たちが考えた観光のアイデアを市役所の方々に発表しました。この活動は、学部発足後もさらに発展させていく予定です。（人間社会学部）

棚沢ゼミ卒業制作展「がんばっ展」

イラスト、写真、ぬいぐるみ。学生が思いのたけを込めて卒業制作展を開催！

政策情報学部、棚沢教授のゼミナールでは、学生がさまざまな現代芸術表現について研究しています。2014年2月、4年生が取り組んだ卒業制作展「がんばっ展」が市内のギャラリーで開かれました。作品だけでなく、展示会の企画や運営もすべて学生たちが準備を進め、会場には個性が光る作品が勢揃いしました。また、同ゼミの卒業生による作品展も同時期に開催され、互いに刺激し合う機会となりました。（政策情報学部）

キラキラ橘つまみぐいウォーク

下町の商店街を学生たちのアイデアで盛り上げています！

商経学部の毒島ゼミが、墨田区の“下町人情キラキラ橘商店街”で地域商業・商店街の活性化イベントを開催！いろいろなお店を楽しんでもらいたいと「つまみぐいウォーク」という企画を考案し、商店街の30店舗以上と交渉。食べ歩きチケットの発行や、当日の運営を行いました。チケットは前売り券・当日券ともに売り切れとなり、普段は商店街に来ない若い親子連れで大盛況！第二弾も実施されました。（商経学部）

キャンパスで、ふと視線を感じたら、それはこんな猫たちかも。あなたも会いに来ませんか？

Campus Snap

今回の猫スナップを撮ったのは、政策情報学部の林敬子さん。カメラ片手にキャンパス内外の猫を追いかける「ねこさんぽ」が趣味の林さんが撮りためた中から、CUCのキャンパスでよく出会う猫たちを紹介してもらいました。

撮影者：林 敬子
政策情報学部　4年
東京都私立共栄学園高校出身